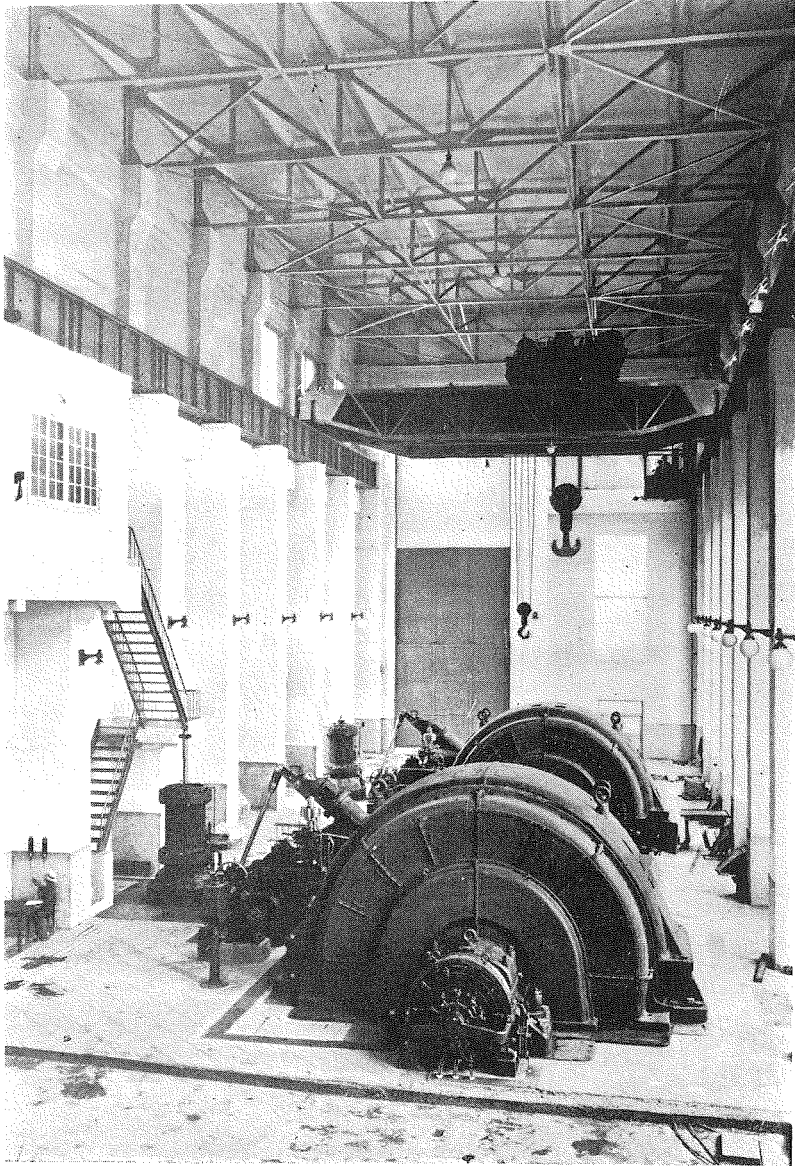


世界的に知られた赴戦江水力發電所第一期工事



第9圖 第一發電所（發電機室の一部）組立作業當時

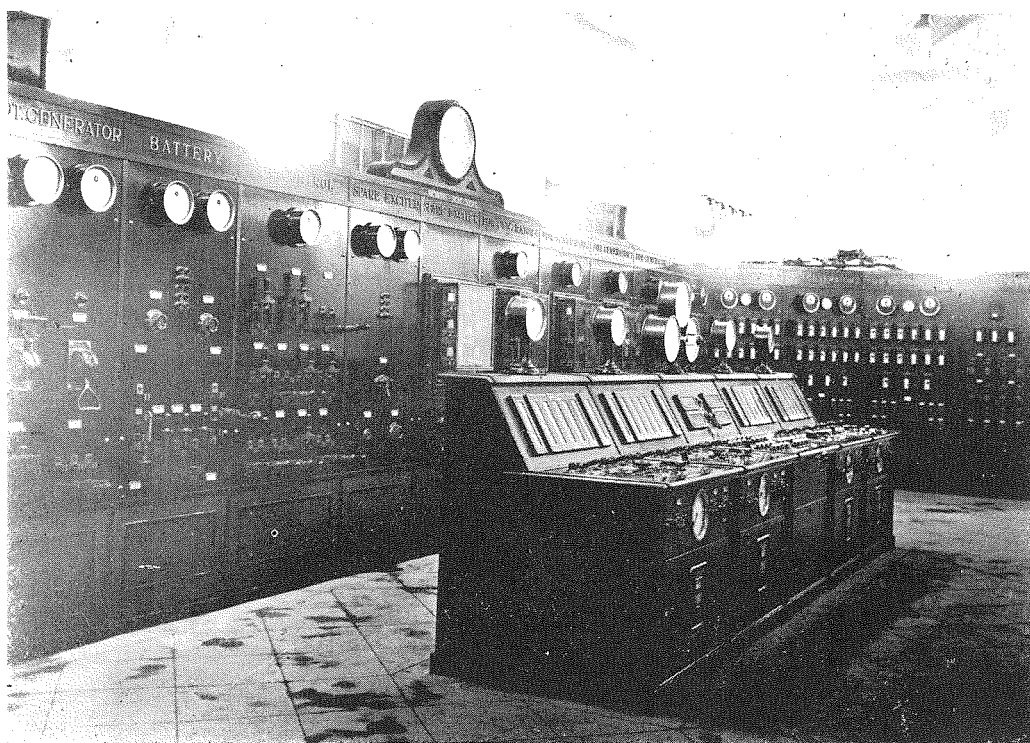
水車4臺 一臺 出力45,000馬力、360回轉、シングルランナー、ダブルゼット横軸インパルスタービン、獨逸フォイト會社製、一臺の全重量約110噸なり。

發電機4臺 一臺の出力36,000 K. V. A. 力率 0.9

11,000 ボルト 3 相全密閉横軸型獨逸シーメンス會社製、一臺の總重量約230噸。

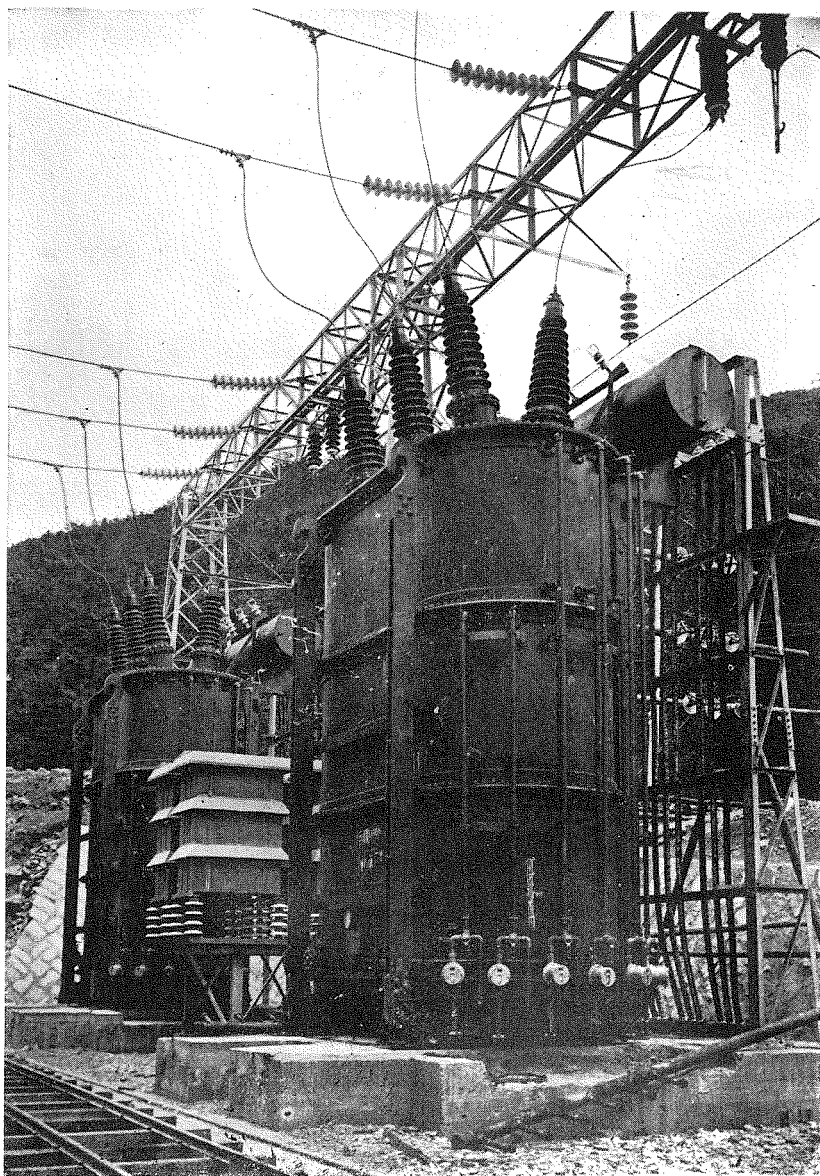
起重機 主捲150噸、補助捲25噸

完成の近況(前號の續) 朝鮮水電株式會社工務部長 久保田 豊



第10圖 第一發電所(配電盤室の一部)

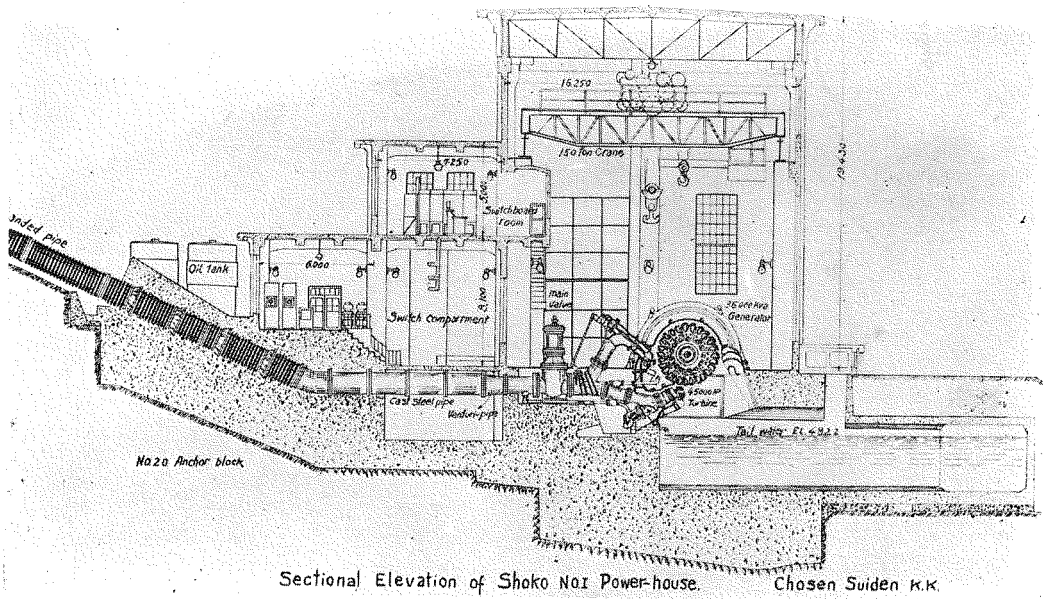
配電盤はベンチタイプ5臺、直立盤20、外に補助盤數個を設備す。



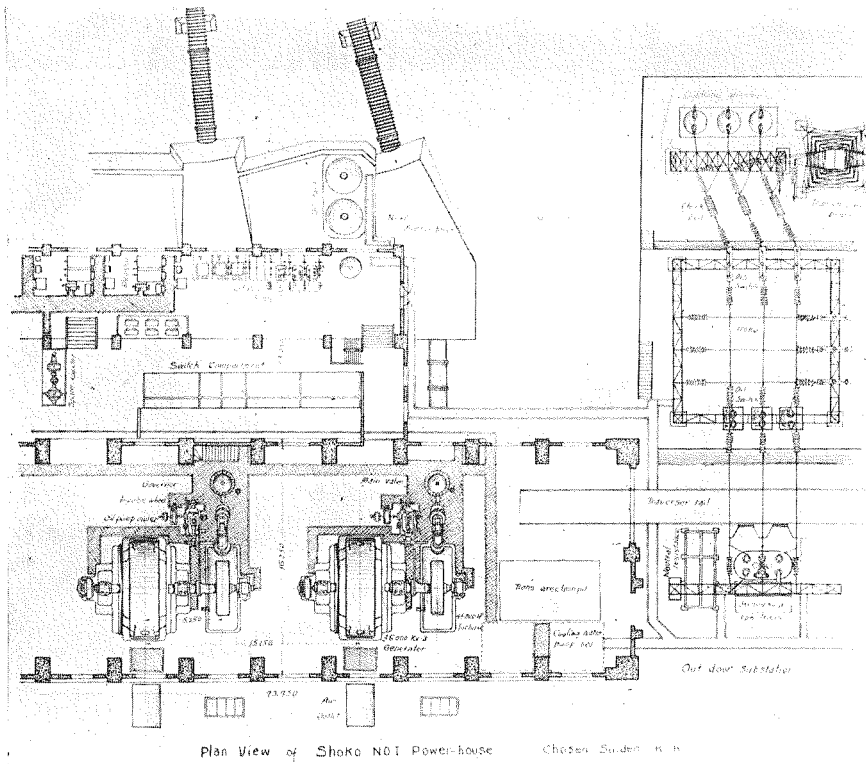
第11圖 主變壓器の一部

容量 1 臺 36,000 K. V. A 5臺

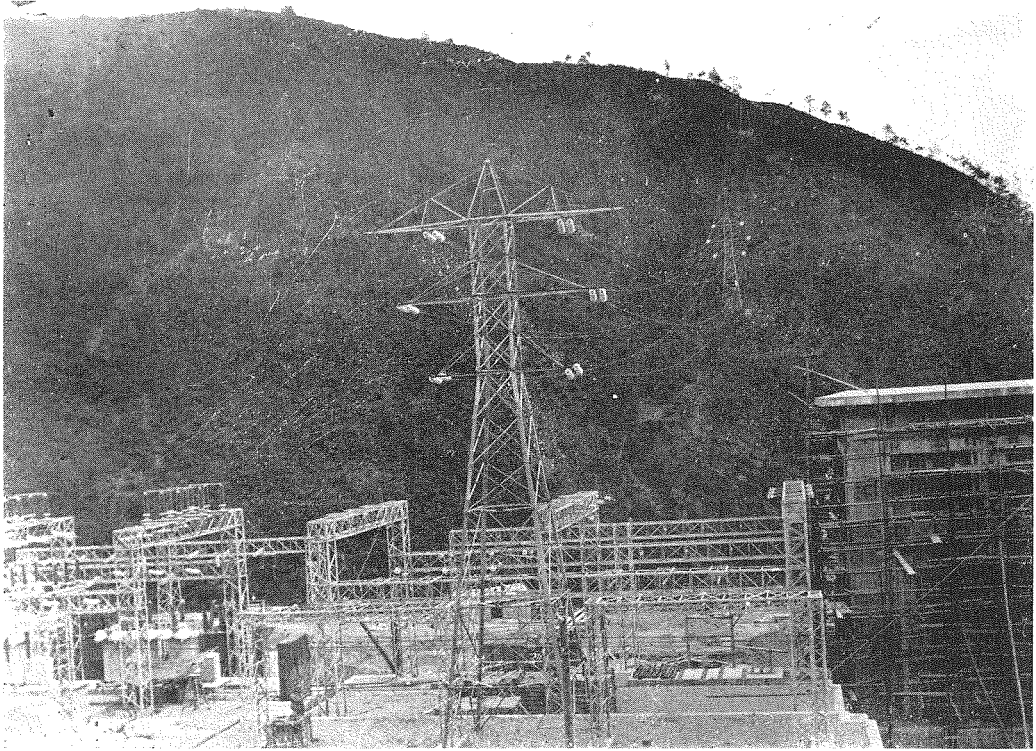
11,000V——110,000V 三相水冷屋外型、芝浦製作所製なり。



第12圖 第一發電所縱斷面圖



第13圖 第一發電所平面圖



第14圖 屋外變電所及送電線の一部

送電線路は二回線兼鐵塔線三線にして電力需要工場への距離平均36哩なり。

送電々壓11万ボルト導線は125平方吋裸硬銅燃線銅心アルミニウム線碍子は10吋懸垂型を使用す。

附說

第二發電所及第一發電所は目下工事中にして前者は出力46,000 K. V. A. 後者は20,000 K. V. A. にして第一發電所を加算せば實に總出力210,000 K. V. A. 即ち19萬キロワットなり、第二第三發電所に屬する發電機、水車、變壓器は何れも國産品にして、第二、第三發電機は芝浦製作所製、水車は電業社製、變壓機は富士電機製なり。

附 記

工事施工に伴ひ設備せる運輸機關の概略
専用鐵道

嶺下 13 哩 日の輸送力 400噸
捲揚 4.5哩 一日の輸送力 150噸
嶺上 14.5哩 一日の輸送量 300噸

輕便軌道 10哩

空中索道

嶺下嶺上を連絡する線 5 哩、一日の輸送能力150噸

嶺上鐵道終點の堰堤間を連絡する線9.5 哩、一日の輸送能力 200 噸

工事用動力設備の概略

火力發電所 2,100 キロ (ディーゼル發電)
水力發電二ヶ所 1,300 キロ
補助火力發電所 800 キロ
計 4,200 キロ

其他工事用諸設備の概要

電話回線40回線、電話機數400個、電話線延長 1,000哩

工事用諸木材50萬尺縮に及ぶを以て大規模の製材所を 2 ヶ所に設く

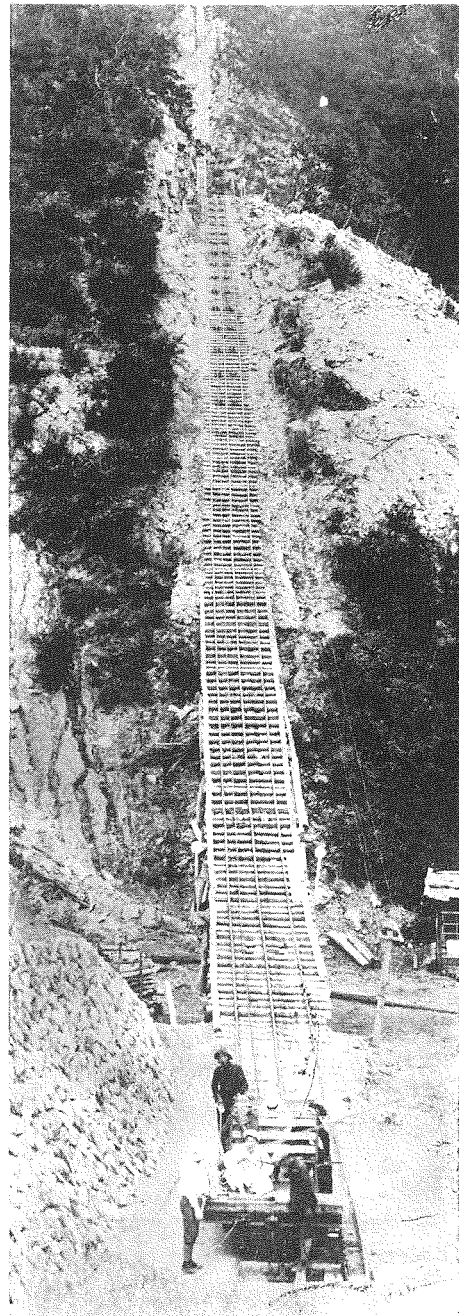
工事用機械類の修理及製作の爲め相當規模の機械工場を 2 ヶ所設置せり。

(以上)

編 者 よ り

以上を以て赴戦江水力發電所工事狀況は主要なる部分のみを視察し終つたわけであるが、其部分的な工事に就ては又多大の參考事項がある。例へば大堰堤の締切、基礎、コンクリート等の施工に就て、或は水路隧道、タンク、水壓鐵管、發電所の施工等、それ等は實に貴重なる實驗であり、教材である、何等かの機會を以て之を又報導したいと思ふ。

工事概要及び圖面等は工事畫報昭和二年六月、七月號を參照されたい。



第15圖 鋼索鐵道の偉觀

延長4哩半、高低差 3,900 尺
最急勾配34度、(1,5分の1)
軌間2呎6吋、30、150、100馬力の三捲揚停車場を設置し、5噸貨車を其儘捲揚る装置とす、一日の輸送力150噸なり。